



▲自慢のギョウジャンニンニク

▼親子二人三脚で営みます



自然と共に育てる、ギョウジャンニンニク

能代市朴瀬 鷲尾 一季さん(50)

20年ほど前からギョウジャンニンニクに取り組んでいる鷲尾一季さん。自生の株を掘って自家採種し、その後、徐々に規模を拡大しました。現在ギョウジャンニンニクを1.2ha手掛け、毎年JAに出荷し、県内外でも高評価を受けています。

「知り合いから勧められて、ギョウジャンニンニクを栽培するようになった。収穫までの生育期間が6〜8年と長いのが特徴で、はじめは栽培について試行錯誤の日々だった。ギョ

ウジャンニンニクは高温と乾燥に弱いので、温度や水、湿度管理には気を付けている。その目安として、他の草花の生長を観察して、その時々に応じた栽培を心掛けています。」

これまでの経験から、観察することの重要性を感じたと鷲尾さん。今後は収穫したものだけでなく苗の販売も行い、栽培農家の拡大とギョウジャンニンニクのブランド化を目指します。